

●ロシア

2016年のロシア経済

2016年の実質 GDP 成長率（1次速報）は対前年比でマイナス0.2%となり、2年続けてのマイナス成長となった。この背景には、ウクライナ問題での西側諸国による対ロシア経済制裁や国際市場における原油価格の下落などがある。ただし、マイナス幅は前年より縮小しており、四半期ベースでも2016年第4四半期にはプラス

成長したとみられる。ロシア経済は改善の傾向を示している。生産面でのGDP（産業別付加価値額）を見ると、鉱工業およびその一部である製造業がいずれも対前年比で1.4%増加している。また、農業は同3.5%増加しており、もっとも生産が拡大した分野となった。他方、小売業は同6.2%減、建設業は同4.3%となっており、低迷が続いている。

小売業売上高は対前年比5.3%減であり、このことが小売業低迷の要因となっ

ているのは明らかである。その背景としては、実質可処分所得が同5.9%も低下したことが指摘できる。これは、今世紀に入って最大の落ち込みである。家計収入のうち消費に向けられたのは72.5%であり、前年比1.5パーセントポイント増加した。財の購入に充てられたのは54.6%で、前年比0.9パーセントポイント増にとどまった。実質所得が減少した中で、最低限の消費を続けていることが、こうした統計数値につながっているものと考えられる。貯蓄を取り崩

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2015			
								1Q	2Q	3Q	4Q
実質 GDP	4.5	4.3	3.4	1.3	0.7	▲ 2.8	▲ 0.2	▲ 2.8	▲ 4.5	▲ 3.7	▲ 3.8
固定資本投資	6.3	10.8	6.8	▲ 0.2	▲ 1.5	▲ 10.1	▲ 0.9	▲ 5.9	▲ 10.7	▲ 13.1	▲ 9.3
鉱工業生産高	7.3	5.0	3.4	0.4	1.7	▲ 0.8	1.3	▲ 0.1	▲ 1.7	▲ 0.5	▲ 0.9
小売売上高	6.5	7.1	6.3	3.9	2.7	▲ 10.0	▲ 5.2	▲ 7.0	▲ 9.6	▲ 9.9	▲ 12.7
実質貨幣可処分所得	5.9	0.5	4.6	4.0	▲ 0.7	▲ 3.2	▲ 5.9	▲ 1.9	▲ 4.3	▲ 4.2	▲ 1.9
消費者物価*	8.8	6.1	6.6	6.5	11.4	12.9	5.4	7.4	8.5	10.4	12.9
工業生産者物価*	16.7	12.0	5.1	3.7	5.9	10.7	7.4	9.2	11.5	12.0	10.7
輸出額（十億ドル）**	397.1	516.7	524.7	527.3	497.8	343.5	285.5	90.3	91.6	79.3	82.4
輸入額（十億ドル）**	228.9	305.8	317.3	315.0	286.7	182.7	182.3	42.0	44.8	47.5	48.4

2016													2017				
1Q	2Q	3Q	4Q	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
▲ 1.2	▲ 0.6	▲ 0.4		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
▲ 1.2	▲ 1.5	0.5	▲ 1.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
1.1	1.5	1.0	1.7	▲ 0.8	3.8	0.3	1.0	1.5	2.0	1.4	1.5	0.1	1.6	3.4	0.2	2.3	
▲ 5.8	▲ 5.9	▲ 4.5	▲ 4.8	▲ 6.4	▲ 4.7	▲ 6.2	▲ 5.1	▲ 6.4	▲ 6.2	▲ 5.1	▲ 5.0	▲ 3.4	▲ 4.2	▲ 4.1	▲ 5.9	▲ 2.3	
▲ 4.2	▲ 6.3	▲ 6.5	▲ 6.1	▲ 6.2	▲ 4.7	▲ 1.7	▲ 7.3	▲ 6.4	▲ 5.2	▲ 7.8	▲ 8.5	▲ 7.9	▲ 5.6	▲ 6.0	▲ 6.4	8.1	
2.1	3.3	4.1	5.4	1.0	1.6	2.1	2.5	2.9	3.3	3.9	3.9	4.1	4.5	5.0	5.4	0.6	
0.3	5.8	5.7	7.4	▲ 1.5	▲ 2.7	0.3	2.1	3.1	5.8	6.4	5.1	5.7	5.9	6.4	7.4	3.3	
61.4	68.5	71.8	83.8	17.6	20.3	23.5	22.0	22.2	24.3	22.7	23.3	25.7	25.3	27.1	31.4	—	
36.0	43.5	50.3	52.4	9.1	12.2	14.7	14.5	13.7	15.3	15.4	17.7	17.2	17.5	16.7	18.2	—	

\*前年12月比。

\*\*税関統計ベース。

\*\*\*斜体は暫定(推計)値。

出所:『ロシアの社会経済情勢(2015年12月号:2016年1月、7月、9月号)』ほか、ロシア連邦国家統計庁発行統計資料

しても消費を増やした2014年、所得の減少に加えてさらに財布の紐をきつく締め、2015年ののち、2016年はどちらかといえは中立的な消費態度だったといえるのではないか。プラス成長に戻っていく素地はあると考えられる。

2016年の鉱工業の付加価値額は対前年比(以下、同じ)で1.4%増加したが、実際の生産額も1.3%増加した。例えば、食品産業は2.4%増で、輸入代替によって生産を伸ばした。また、化学肥料生産、無水アンモニア生産はそれぞれ2.7%、6.3%の増加となっており、これらは輸出が増加している。このように、いくつかの産業部門では、通貨ルーブル下落の恩恵を受けつつある。ただし、単価低下により輸出額は減少したり、後述するようにルーブル高傾向に転じたりしたことなどもあり、決して楽観できる状況ではない。さらに深刻なのは、3.0%の減少となった輸送用機械などの分

野である。中でも乗用車の生産は7.4%もの大幅減で、好転の兆しが見えない。

### 石油・天然ガス産業の複雑な状況

上述の通り、厳しい経済状況の下で、鉱業部門の生産活動は比較的活発である。具体的に、原油生産量は対前年比2.6%増、石炭は同3.4%増だった。天然ガスは前年と同水準であった。

2016年には、原油の輸出量は対前年比4.2%増加し、天然ガスは同7.1%増、石炭は8.8%増となった一方で、石油製品は同9.1%減少した。ただし、価格の低下により、輸出額は大幅に減少した。例えば、ロシア産の原油の指標価格である Urals の年平均価格は、2015年1バレル51.2ドルから、2016年の同41.7ドルへと低下した。こうしたことから、2016年の原油の輸出総額は対前年比17.8%減の737億ドル、石油製品は同31.8%減の460億ドル、天然ガス

は同25.2%減の313億ドルとなった。

こうした状況は2015年にもみられたが、2016年が違うのは、通貨ルーブルが上昇傾向に転じたことである。米ドルに対する為替レートは1月22日に83.59ルーブルという最安値に達した後、ルーブル高の方向に動き、12月31日には60.66ルーブルにまで回復した。ルーブル高が進む際には、ルーブル換算した輸出収入が減少してしまうため、資源輸出企業にとっては非常に厳しい。油価の安定を図るべく、2016年12月にOPECとロシアなど非加盟国は原油の減産に合意している。ロシア政府は2017年のUralsの価格を40ドルと想定して予算を編成しており、減産効果で油価が上昇すれば、ロシア経済にとっては光明となろう。

ERINA 調査研究部長・主任研究員  
新井洋史